

基礎作業学実習における作業活動の主観的特性 ～ フロー概念，統制の所在，興味の変化からみた作業活動～

石井良和 石井奈智子 石川隆志

要 旨

本研究では、学生が基礎作業学実習で経験する作業活動をフロー概念と Locus of control (統制の所在, LOC) および興味という主観的観点から検討した。検討した作業活動は絵画, 鯉のぼり作り, ちぎり絵, 籐細工, ウィンドベル作り, 陶芸であった。陶芸や籐細工という伝統的に作業療法で用いられている作業活動では LOC および活動遂行前の興味度とは相関が認められず, その理由はどちらも程度の差はあるにしろ熟練を要する活動であることが要因の一つと考えられた。ただし, すべての作業活動は遂行後の興味度とフロー質問紙の合計点をはじめとしていくつかの下位項目と有意な相関を示した。このことは作業療法士として対象者を積極的に作業に参加させる責務があることにつながる重要な結果と考えられた。

はじめに

作業療法士の提供する作業活動(種目)は身体障害, 精神障害, 老年期障害, 発達障害という領域にかかわらず作業療法の中心的な治療手段でありまた媒体である。歴史的に見ると作業活動は対象者の興味や関心により選択された時代から, 作業活動のある工程に特徴的な筋活動やバランス, 耐久性, 精神作用などを主として用いる, いわば作業療法士のリーズニングのために選択された要素還元主義的な時代を経て, それらの統合されたものへと向かおうとしている。より高度な作業療法を展開するにはこうした歴史的変遷を視野に入れた作業活動の分析ができる作業療法士の育成が求められる。

作業療法学専攻の学生は基礎作業学実習において臨床で使用頻度の高い作業活動や多様な遂行要素をもつ作業活動を実際に体験する。それぞれの作業活動における遂行要素は一般的作業分析表¹⁾を用いて分析されるが, そこから把握できる特性とは別に実際に行う人の側からみた主観的特性にも目を向ける必要がある。

主観的特性にはさまざまな概念が想定されるが, 今回は作業活動を経験したときのフロー概念²⁾と, 意欲と行動に関連する統制の所在(Locus of Control, 以下 LOC)³⁾, および興味の変化からその特性を検討した。

方 法

1. 対 象

本研究の趣旨を説明し同意の得られた平成17年度の基礎作業学実習履修者である本学作業療法学専攻2年次学生14名(男性6名, 女性8名)を対象とした。

2. 手続き

基礎作業学実習における作業活動のうちで比較的予定された授業回数と時間内に全員が体験できる絵画, 鯉のぼり作り, ちぎり絵, 籐細工, ウィンドベル作り, 陶芸という6つの作業活動の各開始時に LOC 尺度, 興味度を尋ねるアンケート用紙(資料1)を配付して記入してもらい, 終了時にフロー質問紙(資料2)

に回答してもらった。このフロー質問紙は、Csikszentmihalyi and Larson⁴⁾によるものを清水⁵⁾が日本語版としたものを小林ら⁶⁾が一部修正したものをを用いた。

3. データ解析方法

1) フロー概念に関する基準

フロー質問紙は、個人のフロー状態の程度を示す基準として、活動に参加していた時の状態や気分を問う22項目の合計を算出し(各7段階の選択肢から該当する段階を選択、得点範囲22点～154点)、6つの下位項目(感情面、満足感、活性度、集中度、とらわれのなさ、社交性)とその他の項目の平均点を求めた。『感情面』の下位項目に属する質問は「楽しい 苦しい」、「うれしい 悲しい」、「愉快的な 不愉快的な」、「誇らしい 恥ずかしい」であり、『満足感』に属するのは「うまくできた」、「思い通りにできた」、「充実した 空虚な」、「満足な 不満足な」であり、『活性度』に属するのは「強い 弱い」、「積極的な 消極的な」、「生き生きした 生気のない」であり、『集中度』に属するのは「集中していた」、「我を忘れていた」、「熱中した しらけた」であり、『とらわれのなさ』に属するのは「リラックスした 緊張した」、「自由な 押し付けられた」、「開かれた 閉ざされた」であり、『社交性』に属するのは「友情ある 敵意ある」、「みんなと一緒の 孤独な」である。以上の下位項目に属さないその他の質問は、「自分なりにやれることをやった」(質問4)、「創造的な ありきたりの」(質問13)、「素直な ひねくれた」(質問16)である。また、活動に関する難しさと活動に対する技術に関する項目を各7段階の選択肢から選択してもらい、それぞれ挑戦水準と能力水準とした。フロー質問紙の最後にその作業活動の感想を自由に記載してもらった。

2) 興味の程度

作業に対する興味は「まったくない」から「とてもある」までの7段階の選択肢から当てはまるものを作業活動の前後に選択してもらい、その平均点を求めた。

3) LOC 得点

LOC尺度は鎌原らの一般的 Locus of control 尺度⁷⁾を用いその合計点を算出した。項目ごとに各4段階の選択肢から該当する段階を選択するもので、得点範囲は18点～72点であり、高得点ほど内的統制傾向を示すとされている。内的統制傾向は自分の行

動とその結果は随伴すると認識する傾向であり、行動との関連を予測するものである。

各作業活動において、フロー質問紙項目、興味、能力と挑戦の平均点の比較には一元配置分散分析、興味の変化には対応のある t 検定、そして LOC とフロー質問紙項目、能力および挑戦についてと、フロー質問紙項目と興味についての関連は PEARSON の相関係数を用いた。

結 果

1) 各作業活動におけるフロー概念の特性

フロー合計点には各作業活動に有意な差は認められなかったが、社交性という下位項目において群の効果は有意であった ($F(5,65) = 3.77, p < 0.01$)。LSD 法を用いた多重比較によると絵画がその他5つの活動と比べて有意に低い得点であった ($MSe = 2.33, p < 0.05$) (表1)。

活動に対する能力感と挑戦感では、ちぎり絵を除くすべての活動において挑戦感の方が有意に上回っていた (表1)。

活動の経験では、経験有りと回答したのは絵画(8名)と陶芸(3名)であり、その他の活動は全員経験なしであった (表1)。

2) 興味の変化および LOC 得点

作業活動の前後における興味度の変化では、絵画 ($t = -2.28, 13df, p = 0.0400$) とちぎり絵 ($t = -3.86, 13df, p = 0.0019$) において有意に増加していた (表1)。

LOC の平均得点は 46.07 ± 8.20 であり、最小は21点、最高は56点であった (表1)。

3) LOC とフロー概念との相関

LOC とフローの間に有意な相関を示した活動は、鯉のぼり作り (フロー合計点 $r = 0.73$, 感情面 $r = 0.70$, 満足感 $r = 0.63$, 活性度 $r = 0.79$, 集中度 $r = 0.67$, 社交性 $r = 0.64$, 質問13「創造的な ありきたりの」 $r = 0.55$, 質問16「すなおな ひねくれた」 $r = 0.55$) とちぎり絵 (フロー合計点 $r = 0.59$, 感情面 $r = 0.74$, とらわれのなさ $r = 0.72$, 質問13「創造的な ありきたりの」 $r = 0.67$)、そしてウィンドベル作り (集中度 $r = 0.57$) であった。ウィンドベル作りにのみ挑戦感との間に有意な相関が認められた ($r = 0.55$) (表2)。

表1 各作業活動におけるフロー質問紙, 興味, 能力と挑戦の平均点, 経験の有無 (n = 14)

	絵 画	鯉のぼり	ちぎり絵	籐細工	ウインドベル	陶 芸
フロー合計点	103.57 ± 14.31	106.71 ± 17.29	109.57 ± 16.50	110.14 ± 16.63	107.07 ± 14.36	109.36 ± 14.15
感情面	4.73 ± 1.15	5.09 ± 0.92	5.09 ± 0.93	4.93 ± 0.68	4.95 ± 0.95	5.14 ± 0.78
満足感	4.73 ± 1.03	4.46 ± 0.94	4.80 ± 1.15	4.71 ± 1.08	4.64 ± 1.13	4.59 ± 1.01
活性度	4.57 ± 0.87	4.88 ± 1.08	4.67 ± 0.65	5.12 ± 0.81	4.86 ± 1.02	5.00 ± 0.78
集中度	4.81 ± 0.97	4.55 ± 0.97	5.07 ± 1.06	5.05 ± 1.29	4.81 ± 1.09	4.90 ± 0.92
とらわれのなさ	4.88 ± 1.06	5.19 ± 0.88	5.05 ± 1.27	5.21 ± 0.92	4.95 ± 0.70	4.93 ± 0.73
社交性	4.00 ± 0.98	5.00 ± 1.24	4.68 ± 1.23	5.04 ± 0.72	5.04 ± 0.77	4.96 ± 0.75
その他 (質問4)	5.43 ± 1.28	4.43 ± 1.55	5.64 ± 1.22	4.86 ± 1.46	4.93 ± 0.92	4.93 ± 1.21
(質問13)	4.07 ± 1.44	4.14 ± 1.23	4.29 ± 1.14	4.64 ± 0.74	4.71 ± 0.99	4.64 ± 0.93
(質問16)	4.57 ± 1.09	5.50 ± 1.16	5.29 ± 0.61	5.29 ± 0.91	5.07 ± 1.33	5.50 ± 0.65
興味 (前)	4.14 ± 1.96	4.86 ± 1.03	4.07 ± 1.33	4.29 ± 1.33	4.29 ± 0.99	5.07 ± 0.83
興味 (後)	5.00 ± 1.36	4.79 ± 1.37	5.57 ± 1.34	5.14 ± 1.23	4.64 ± 1.15	4.93 ± 0.92
能力	2.93 ± 1.33	3.21 ± 0.89	3.29 ± 1.14	2.93 ± 1.00	3.29 ± 0.99	3.00 ± 0.96
挑戦	4.14 ± 1.29	4.14 ± 1.03	4.36 ± 1.65	4.93 ± 1.27	4.71 ± 1.27	5.00 ± 1.04
経験 有り	8	0	0	0	0	3
(人数) なし	6	14	14	14	14	11

*p < 0.05 **p < 0.01

表2 各作業活動におけるLOCとフロー質問紙得点, 能力および挑戦の相関係数 r (n = 14)

	絵 画	鯉のぼり	ちぎり絵	籐細工	ウインドベル	陶 芸
フロー合計点	- 0.03	0.73*	0.59*	0.04	0.13	0.33
感情面	0.31	0.70*	0.74*	0.02	0.02	0.50
満足感	0.10	0.63*	0.44	- 0.08	- 0.35	0.20
活性度	- 0.10	0.79*	0.52	- 0.02	0.50	0.36
集中度	- 0.17	0.67*	0.15	0.30	0.57*	0.24
とらわれのなさ	- 0.44	0.32	0.72*	- 0.13	- 0.09	0.18
社交性	0.43	0.64*	0.33	0.31	0.32	0.02
その他 (質問4)	- 0.38	0.37	- 0.17	- 0.33	- 0.25	- 0.22
(質問13)	0.10	0.55*	0.67*	- 0.10	0.20	0.20
(質問16)	0.03	0.55*	0.24	0.14	0.13	0.38
能力	0.33	0.20	0.48	0.12	0.16	0.24
挑戦	- 0.31	- 0.26	- 0.53	- 0.19	0.55*	- 0.47

*p < 0.05

表3 各作業活動における興味度 (前・後) とフロー質問紙得点の相関係数 r (n = 14)

	絵 画		鯉のぼり		ちぎり絵		籐細工		ウインドベル		陶 芸	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
フロー合計点	0.29	0.63*	0.24	0.68*	0.17	0.62*	- 0.02	0.69*	0.59*	0.86*	0.05	0.59*
感情面	0.61*	0.82*	0.28	0.61*	0.12	0.65*	0.07	0.65*	0.40	0.82*	0.10	0.61*
満足感	0.04	0.34	0.13	0.62*	0.27	0.59*	0.03	0.74*	0.51	0.83*	- 0.03	0.61*
活性度	0.25	0.65*	0.14	0.69*	- 0.18	0.18	0.04	0.55*	0.35	0.39	- 0.08	0.32
集中度	- 0.07	0.14	0.19	0.50	0.16	0.44	- 0.10	0.37	0.36	0.19	0.21	0.39
とらわれのなさ	0.17	0.29	0.15	0.33	0.09	0.57*	- 0.14	0.51	0.46	0.45	- 0.12	0.37
社交性	0.42	0.43	0.27	0.66*	0.09	0.24	- 0.05	0.43	0.19	0.36	0.07	0.33

*p < 0.05

4) 興味度とフロー概念との相関

活動を行う前の興味度と有意な相関を示したのは絵画で感情面 ($r = 0.61$) とウィンドベル作りでフロー合計点 ($r = 0.59$) であった。活動後の興味度と有意な相関を示したのは絵画においてはフロー合計点 ($r = 0.63$)、感情面 ($r = 0.82$)、活性度 ($r = 0.65$)、鯉のぼり作りにおいてはフロー合計点 ($r = 0.68$)、感情面 ($r = 0.61$)、満足感 ($r = 0.62$)、活性度 ($r = 0.69$)、社交性 ($r = 0.66$)、ちぎり絵においては、フロー合計点 ($r = 0.62$)、感情面 ($r = 0.65$)、満足感 ($r = 0.59$)、とらわれのなさ ($r = 0.57$)、籐細工においてはフロー合計点 ($r = 0.69$)、感情面 ($r = 0.65$)、満足感 ($r = 0.74$)、活性度 ($r = 0.55$)、ウィンドベル作りにおいてはフロー合計点 ($r = 0.86$)、感情面 ($r = 0.82$)、満足感 ($r = 0.83$)、陶芸においてはフロー合計点 ($r = 0.59$)、感情面 ($r = 0.61$)、満足感 ($r = 0.61$) であった (表3)。

考 察

上記の結果をもとに各作業活動の特徴を考察する。絵画は経験する機会が多く、完成後には興味が増す活動であることが示された。確かに高校までの授業で多くの機会があり、馴染みのある活動と考えられる。他の作業活動と比べて社交性が低かったことについては、課題が星野富弘氏の絵の模写であり、完成まで一人で行う個人的な作業でもあるため、他者との交流が少なくなったことが考えられる。臨床的には塗り絵が精神科領域では導入時期に選択されることが多いが、これは絵画よりは枠組みがあるだけ自由度が少なく、他者との交流も少なく済むために混乱を招かない作業活動であることが理解できる。

鯉のぼり作りは、季節感、ミシンの操作技能、自由な絵画的要素をもったダイナミックな活動として行っているものであるが、日常的にはあまり行う機会はないし、自作の鯉のぼりを見る機会もほとんどないはずである。LOC とフロー合計点とその下位項目のほとんどに有意な相関が見られたことは、鯉のぼり作りという課題状況を内的統制型の人はスキル状況と見なす傾向⁹⁾ があるといわれることと関連すると思われる。LOC で高得点の内的統制型の人は自分の置かれたこの課題状況を自らのスキルを発揮することでうまくいく (結果が随伴する) と考えるとすると、フロー体験あるいはそれに近い感覚を得るのではないかと考えられる。

ちぎり絵は和紙を手でちぎり、見本通りに台紙に貼

るという工程が少ない活動である。この活動のみが挑戦感と能力感に有意差を認めておらず、比較的抵抗感なく行える作業活動と言えるかもしれない。また、鯉のぼり作りで次いで LOC とフロー合計点およびその下位項目の間に有意な相関を多く認めている。一見簡単な活動であるが、学生の感想としては「和紙を手で思ったようにちぎることが難しかった」というものが多く、また完成したものについては「きれいにできた」と回答している学生も多かった。鯉のぼり作りのスキル状況は活動全体を示しているのに対して、ちぎり絵では和紙を手で思ったようにちぎるという一つの工程に限局したスキル状況と認識した可能性も考えられる。

籐細工はフロー合計点では高得点な活動ではあったが、LOC や活動遂行前の興味との相関はなかった。日常的には籐かごはよく見かけるものの自ら作成する機会はあまりないし、対象者の中にも経験者はいなかった。工程は編む作業が中心であり単調であり難しくはないものの、力入れ具合によって形がいびつになることも多く、若干の熟練を要する活動であったことなどが理由として考えられる。

ウィンドベルは、長いアルミ管を数本にカットし、糸でつるすという比較的少ない工程の活動であり、その工程も見本からすぐにイメージできるものである。遂行前の興味度とフロー合計点と有意な相関を示し、LOC との間には集中度および挑戦感に有意な相関を認めた。アルミ管をカットすることと、それに糸を通す穴をあける工程にのみ集中力が求められるが、それ以外ではほとんど失敗することはなく、完成品は市販のものとかわらない音色を奏でるインテリア小物としてみても遜色ないという活動特性によるものと思われる。

陶芸は日常的に目にするものである。3名の経験者がいたが小中学生のときに1～2回の経験であった。陶芸は籐細工とともに LOC や活動遂行前の興味との間に有意な相関が認められなかった。興味度は高いものの挑戦感も高く、焼き上がりはイメージと異なっていたりして、偶然的な要素も大きく難しい活動であったことが理由として考えられる。籐細工よりも熟練を要する活動といえよう。

表3に示したようにすべての作業活動において遂行後の興味度とフロー質問紙の合計点をはじめとするいくつかの下位項目に有意な相関が認められた。作業活動前の興味度では絵画における感情面とウィンドベルにおけるフロー合計点にしか有意な相関が認められなかったことを考えると、どの作業活動においても実際にその活動を遂行することで得られる効果として、自

らの興味とフロー概念で述べられている面白さや楽しさ、没入感などの感覚が結びつけられるようになるものと考えられる。このことから、Kielhofner⁹⁾がいうように作業療法は患者に対して作業への積極的参加を求めるといふことの意味合いが理解でき、また、Reilly¹⁰⁾が作業療法の本質的な前提を「人間は、自らの精神と意志とによってエネルギーを与えられた両手の使用を通して、自分自身の健康状態に影響を及ぼすことができる」としたことや、菅修¹¹⁾の「作業療法の奏功機転」に述べられていることが改めて理解できる。本研究の対象者は健常な学生であったが、作業をすることの基本的な意味合いはこれらの見解を支持するものと思われ、障害者に対しても積極的に作業を活用することの重要性を示唆するものと考えられる。

今回は対象者数が少なく、男性および女性という観点からの分析や、どのような活動であっても平均以上の挑戦感と能力感を示すオートテリックパーソナリティ¹²⁾を示す存在などは検討しなかった。また、革細工や木工などの伝統的作業活動についても陶芸や籐細工のような傾向を示すかどうかなども今後の検討課題と考えられる。

まとめ

作業療法において個人の主観的側面である統制感や興味などを評価して、適切な作業活動を提供することは対象者にとって意味と目的のある作業を提供することと同様に重要なことである。今回、基礎作業学実習で経験する作業活動をフロー概念とLOCおよび興味という観点から検討した。陶芸や籐細工という伝統的に作業療法で用いられている作業活動ではLOCおよび興味とは相関が認められず、その理由はどちらも程度の差はあるにしろ熟練を要する活動であることが要因の一つと考えられた。ただし、どの作業活動も遂行後においては興味度とフロー質問紙の合計点をはじめとしていくつかの下位項目と有意な相関を示した。このことは作業療法士として対象者を積極的に作業に参加させる責務があることにつながる重要な結果と考え

られた。

文 献

- 1) 山根寛：ひとと作業・作業活動 第2版。三輪書店、2005。
- 2) Csikszentmihalyi, M (今村浩明・訳)：フロー体験喜びの現象学。世界思想社、1996。
- 3) Rotter, J. B: Generalized expectancies for internal vs. external control of reinforcement. Psychological Monographs, 80 (Whole No.609), 1-28, 1966.
- 4) Csikszentmihalyi M and Larson R: Being adolescent: conflict and growth in the teenage years. Basic, 1984.
- 5) 清水明子：調査用紙を用いたデイケアプログラムの検討～フロー経験の視点から～。精神医学研究所業績集 33号：175-185, 1996。
- 6) 小林隆司：Fm によるフロー質問紙の妥当性の検討。作業行動研究, 7(1)：73-74, 2003。
- 7) 鎌原雅彦, 樋口一辰：Locus of Control 尺度の作成と信頼性, 妥当性の検討。教育心理学研究, 30: 302-307, 1982。
- 8) 水口禮治：人格構造の認知心理学的研究 Locus of Control (統制の所在性) に関する疎密性仮説の提唱と検証。風間書房, 1985。
- 9) Kielhofner G (山田孝・小西紀一 訳)：作業療法の理論。三輪書店, 1993。
- 10) Reilly M: The Eleanor Clarke Slagle Lecture: Occupational therapy can be one of the great idea of the 21th century medicine. Am J Occup Ther 16: 1-9, 1962.
- 11) 菅 修：作業療法の奏功機転。精神神経学雑誌 77: 770-772, 1975。
- 12) 浅川希洋志：フロー経験と日常生活における充実感。今村, 浅川・編, フロー理論の展開, 世界思想社, 2003。

資料 1

Locus of Control 評定尺度

あなたの氏名 _____

次の文章を読み, 該当する段階に で囲んで下さい.

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| | そ | や | や | そ |
| | う | や | や | う |
| | 思 | そ | そ | 思 |
| | う | う | 思 | わ |
| | | | わ | な |
| | | | な | い |
1. あなたは, 何でも, なりゆきにまかせるのが一番だと思いますか E
 2. あなたは, 努力すれば, 立派な人間になれると思いますか I
 3. あなたは, 一生懸命話せば, 誰にでも, わかってもらえると思いますか I
 4. あなたは, 自分の人生を, 自分自身で決定していると思いますか I
 5. あなたの人生は, 運命によって決められていると思いますか E
 6. あなたが幸福になるか不幸になるかは, 偶然によって決まると思いませんか E
 7. あなたは, 自分の身に起こることは自分のおかれている環境によって
決定されていると思いますか E
 8. あなたは, どんなに努力しても, 友人の本当の気持ちを理解することは
できないものだと思いますか E
 9. あなたの人生は, ギャンブルのようなものだと思いますか E
 10. あなたが将来何になるかについて考えることは, 役に立つと思いますか I
 11. あなたは, 努力すれば, どんなことでも自分の力でできると思いませんか I
 12. あなたは, たいていの場合, 自分自身で決断した方が良い結果を生むと
思いませんか I
 13. あなたが幸福になるか不幸になるかは, あなたの努力次第だと思いますか I
 14. あなたは, 自分の一生を思い通りに生きることができると思いませんか I
 15. あなたの将来は, 運やチャンスによって決まると思いませんか E
 16. あなたは, 自分の身に起こることを自分の力ではどうすることも
できないと思いますか E
 17. あなたは, 努力すれば誰とでも友人になれると思いますか I
 18. あなたが努力するかどうかと, あなたが成功するかどうかとは, あまり
関係がないと思いますか E

得点 _____

鎌原・樋口・清水：教育心理学研究, 30(4), 302-307, 1982.

以前に _____ の経験はありますか? ある (何回 _____ 回) / ない

作業に対する興味

	興味が						興味が
	まったくない						とてもある
作業前	1	2	3	4	5	6	7

資料 2

フロー質問紙

お名前 _____

1. 活動に参加していたときあなたは・・・,

	はまらな	全	あ	て	あ	て	ま	よ
	い	く	ま	ま	ま	ま	ま	く
	ない	あ	あ	あ	あ	あ	あ	く
質問 1 集中していた	1	2	3	4	5	6	7	
質問 2 我を忘れていた	1	2	3	4	5	6	7	
質問 3 思い通りにできた	1	2	3	4	5	6	7	
質問 4 自分なりにやれることをやった	1	2	3	4	5	6	7	
質問 5 うまくできた	1	2	3	4	5	6	7	

2. 活動についてあてはまる箇所に丸を記してください.

活動の難しさ	非常に簡単	1	2	3	4	5	6	非常に難しい
								7
活動に対するあなたの技術	全くない	1	2	3	4	5	6	かなりある
								7

3. 活動していたときの気分はどうでしたか? あてはまる箇所に丸をつけてください.

	と	か	や	ど	や	か	と	
	も	な	や	ち	や	な	も	
	あ	り	あ	ら	あ	り	あ	
	て	あ	て	で	て	あ	て	
	は	て	は	も	は	て	は	
	ま	は	ま	な	ま	は	ま	
	る	ま	る	い	る	ま	る	
質問 6 うれしい	3	2	1	0	1	2	3	悲しい
質問 7 不愉快な	3	2	1	0	1	2	3	愉快的な *
質問 8 積極的な	3	2	1	0	1	2	3	消極的な
質問 9 強い	3	2	1	0	1	2	3	弱い
質問 10 みんなと一緒にの	3	2	1	0	1	2	3	孤独な
質問 11 誇らしい	3	2	1	0	1	2	3	恥ずかしい
質問 12 しらけた	3	2	1	0	1	2	3	熱中した *
質問 13 創造的な	3	2	1	0	1	2	3	ありきたりの
質問 14 生き生きした	3	2	1	0	1	2	3	生気のない
質問 15 閉ざされた	3	2	1	0	1	2	3	開かれた *
質問 16 素直な	3	2	1	0	1	2	3	ひねくれた
質問 17 リラックスした	3	2	1	0	1	2	3	緊張した
質問 18 友情ある	3	2	1	0	1	2	3	敵意ある
質問 19 苦しい	3	2	1	0	1	2	3	楽しい *
質問 20 満足な	3	2	1	0	1	2	3	不満足な
質問 21 充実した	3	2	1	0	1	2	3	空虚な
質問 22 自由な	3	2	1	0	1	2	3	押し付けられた

4. 作業に対する興味

作業後	興味	1	2	3	4	5	6	興味
	が							が
	ま							と
	った							と
	く							も
	ない							あ
								る

5. 感想 (思ったこと, 感じたこと等を, ご自由にお書き下さい)

ご協力ありがとうございました.

A subjective view of occupational activities in basic occupational practice: Flow concept, Locus of control, and interest

Yoshikazu ISHII Nachiko ISHII Takashi ISHIKAWA

Course of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Akita University

In this study, we examined the activities that Occupational Therapy Students experienced in basic occupational practice from the subjective point of view of flow concept, Locus of control and interest. The activities that we examined were drawing, making carp streamer, paper craft (Chigirie), rattan work, making wind chimes, and ceramic art. Rattan work and ceramic art traditionally used in occupational therapy did not correlate significantly with LOC and the degree of interest at the start of these activities. It was thought that the reason was that both activities required a lot of skill to some degree or another. But, the degree of interest after accomplishment of all of activities correlated significantly with the total scores and some sub-category scores of flow questionnaire items. These results were significant for the responsibility of occupational therapist to have patients participate actively in activities.